



生野医療生協の誇れる 歴史に夢のせて

お金なくても診てくれた

一九五一年、戦後の混乱は続き、貧しい生活と劣悪な公衆衛生が区民の生活と健康を蝕んでいました。が医療施設が限りなく少なく、皆保険制度のない時代、生活と健康を守る会と先駆的な住民等の努力により、田島一丁目二四番地に田島診療所が開設されました。

*

設立趣意書に「重い税金と低賃金と失業で日夜苦しんでいる私たち貧乏人にとって、病気はもう一つの更に大きな脅威であります」とあるように、当時の生野区民にとつてかけがえのない存在として歓迎されました。お金がなく、受診できない人に「体を治し、働い

てからでいい」と診てくれたとのエピソードが今でも地域の語り草になっています。一方で、医療体制や経営問題などの困難は常時つきまとい、職員の給料や薬の仕入れ代金が支払えず運営が危ぶまれる時代が長く続きました。

地域と協同で保健予防活動

そんな困難な中でも「お互い助け合い、協同する精神のもとに診療所を経営し、良心的な医師と優秀なる設備と廉価な治療費によって、相互の生活と健康を守る方針で：こ」と一九五八年十一月組合員総会で議論し、「生野生活と健康を守る会」から「生野医療生活協同組合」（組合員数四六〇世帯）



生野医療生協創立総会（河内長野）1958年11月4日

は公害患者特診を設置、喘息で苦しむ患者さんを中心にした公害患者会を組織し、「政府と企業の責任を追及」する運動に取り組みました。その運動はやがて革新大阪府政誕生の原動力として力を発揮しました。

理事会が変わると……

組合員と職員の親睦も運動会、文化祭、日帰り旅行、平和夏祭りなどが旺盛に取り組まれ、節目ごとに開催された様々なイベントも感謝と団結の絆として仲間意識を深める重要な役割を担いました。とりわけ班長バスツアーは時代の要請もあり、期待もされました。毎年「理事と職員の学習研修会」

は生野医療生協の誇れる取り組みとして、また共同の営みを強化発展させる上でも必要かつ意義深いものでした。二一世紀を担う医療生協の田島診療所として「夢とロマンを語ろう」の学習研修会ではすべての参加者が「二一世紀のわたし・田島診・医療生協」を語り合った画期的な研修会になりました。

田島診療所が存亡の危機に直面した時、私たちが守るべきは何かを議論し、厳しい困難と苦しさを克服して「民医連医療」を守るべき宝として認識を共有しました。そのエネルギーの源は組合員の利益を優先し、医療生協の夢を実現発展させたいという「医療生協大好き人間」のロマンを大事にする理事会集団の団結の勝利でした。故白井理事の言葉が印象的です。「医療生協は様々な特色を持った人間集団の組織である。その意思と力を結集すればどんなことも可能である」と。その無限なる可能性を健康・平和を起点とした「明るい健康なまちづくり」に貢献する医療生協に発展する夢を選択したのでです。

「夢のかけ橋」

かつて四生協の合併が議論されたときに生野医療生協として「充実しつつある」との認識や特色を活かしたいとする意見と、二一世紀の医療情勢を見据えた積極的な医療生協運動を展開すべきである

との意見に二分された状況から、組合員の意見を聞きつつ粘り強く議論を重ね、理事会は「変わってから合併」の方針を尊重し、合併に向けて諸準備に取り組みました。一九九八年総代会は、手狭になった診療所を組合員のニーズに応える「新診療所建設の方針」を決議し、総力をあげての活動が展開されました。仲間増やし目標の残四七八世帯、増資目標も残りが多い：本当に達成ができるのだろうか。しかし、理事会の団結と定石を踏襲した取り組みは、困難を乗り越えて短期間であるにも拘らず見事に達成することができました。かつて「目標を設定する能力を持たない」と侮蔑的な形容をされた理事会が奮起したのでです。そして千六百名にのぼる建設増資者の刻銘モニュメント「夢のかけ橋」を診療所玄関に建立することができました。その喜びの達成感はずいぶん自信へと変化し、次につながる展望が見えてくるのです。その展望こそが生野医療生協が誇る日曜健診活動とともに継承したい貴重な財産なのです。



診療所玄関前のモニュメント「夢のかけ橋」(2000年設立)



開設当時の田島診療所